

需要前年比9.1%の大幅増1,159千ト
2013年以来の高水準
～11月LPガス需給実績（5日集計）～

日本LPガス協会がこのほどとりまとめた「LPガス需給統計」（5日集計）によると、11月のLPガス需要（元売出荷ベース）は前年同月比9.1%増の1,159千トとなった。3カ月連続の前年比プラス。それも2013年11月の1,239千ト以来の大量需要となった。6カ月続けてのマイナスだったプロパン需要も6.8%増、ブタンは9月、10月の37%、26%増には至らなかったが18.1%増と引き続き大幅増となった。これに対して供給は、輸入が11月としては低水準の758千トにとどまった。国内生産も9月、10月に続き低調で石油精製分、石油化学分合計175千トだった。この結果、供給計は933千トとなった。前年11月の超低水準903千トほどではなかったが、需要ピーク期を前に100万トを下回った。このため、11月末の一次基地在庫は月間226千ト減の1,612千トとなった。前年同月末比では96.5%となった。うちランニング在庫は481千トで同80.7%にまで低下した。

1. <生産> 11月の国内LPガス生産量は、石油精製分が前月比16千ト増、前年同月比2.1%減の139千ト、石油化学分が前月比7千ト減、前年同月比2.9%増の36千トとなった。

11月の原油処理量（精製業者分）は前月比4.2%増、前年同月比5.5%減の14,397千k lだった。10月の原油処理は消費税の増税を前にガソリンや灯油の仮需が見込まれた9月増産の反動減となったが、11月はやや増加した。ただ、石油需要は低調（前年比2.0%減）で原油処理も落ち込んだままとなった。これが製油所LPガス生産を減少させ、市場出荷量（ここでの精製分LPガス生産）を低調にした。

11月の石油化学のエチレン生産は552千ト、前月比1.1%減、前年同月比1.3%減となった。11月のエチレンプラントの定修はゼロ。10月、昨年11月とも定修はゼロ。プラント稼働率は96.5%となった。このため併産LPガスは横ばいだったが、極東のプロパン市況の高騰から石化工場内自家消費が増加、市場出荷量は36千トにとどまった。

2. <輸入> 11月の輸入は758千トで低水準だった前月及び前年11月に比べると増加した。前月比71千ト増、前年同月比4.4%（118千ト）増。しかし、需要ピーク期を前にした月の輸入量としては低調だった。米国からの極東入着カーゴが少なかったことも影響したようだ。パナマ運河での船の輻輳も響いた。9月までは極東市場では米国産プロパンがジャブジャブ状態を続けていたが、10月、11月とタイト化が進行した。それまでの極東CFR市場のCFR中国とCFR日本の市況の乖離は縮小。原油上昇にもつれ高してCFR市況はともに高騰。日本勢もスポット買いの動きを手控えた。

11月の国別輸入状況は、北米が757千ト、アブダビ130千ト、オーストラリア32千ト、カタール24千ト。サウジアラビアやクウェートからの輸入はなかった。北米からの輸入比率は75.7%。なおプロパンに限ると572千ト輸入のうち北米が503千トで87.9%となっている。ターム契約による中東からの輸入＝船積みはもっと多いが、今や米国のプロパン輸出は年間3,300万ト超ペースとなっており、アジア・極東地域には米国カーゴがどんどん流入、勢いトレーディングによる米国玉の輸入も高比率となる。中東産カーゴは中国やインド、インドネシアなどに向かった。

3. <総需要と一般用需要> 11月のLPガストータル需要は、プロパンが前年同月比6.8%増の905千ト、ブタンが同18.1%増の254千ト、合計で同9.1%増の1,159千トとなった。プロパンは7カ月ぶりの前年比プラス。ブタンは3カ月連続のプラス、それも二桁増需が続く。一般用需要に限ると、プロパンが6.8%増の905千ト、ブタンが16.0%増の217千ト、合計が8.5%増の1,122千ト。

11月の気温は、北日本が平年比0.4℃低、東日本は同0.9℃高、西日本が同0.8℃高。平年比1.5℃～2.1℃など異常な高気温が続いていた10月までに比べると「低気温」となった。北日本で1.3℃高、東日本で1.5℃高だった昨年11月に比べると「寒い11月」となった。これが実需を増やしたほか、販売事業者の在庫補填を促した。12月CPの先高感観が支配的となったことも、販売事業者の在庫積み増しの動きに拍車を掛けたようだ。

4. <輸入船直納需要> 鉄鋼用と電力用の受入れは引き続きゼロだったが、化学原料用はブタン受入れが続き37千ト（昨年11月はブタン28千ト）。直納需要計は前年同月比32.1%増となった。LNGの供給が旺盛なことから、電力用のLPガス需要は期待薄が続く。輸入CIF価格はLNGに比べてLPGが安値となっている。

5. <在庫> 以上のような需給の結果、11月末の一次基地在庫は10月末比226千ト減の1,612千トとなった。昨年11月末比96.5%と前年比マイナスとなった。うちランニング在庫は481千トで10月末比238千ト減、前年同月末比80.1%と大幅に減少した。11月末法定備蓄量は1,131千ト。2月から民間備蓄日数が50日分から40日分に軽減されている。

11月のLPガス需給実績は次のとおり（単位・千ト、カッコ内は前年比%）。

	プロパン	ブタン	合計
月初在庫	1,302	536	1,838
	(99.0)	(104.1)	(100.4)
ランニング分	488	231	719
	(90.7)	(98.7)	(93.1)
法定備蓄	814	305	1,119
<供給>			
石油精製分生産	87	52	139
	(85.3)	(130.0)	(97.9)
石油化学分生産	19	17	36
	(82.6)	(141.7)	(102.9)
輸入	573	185	758
	(104.9)	(102.8)	(104.4)
供給計	679	254	933
	(101.2)	(109.5)	(103.3)
<出荷>			
一般用	905	217	1,122
	(106.8)	(116.0)	(108.5)
鉄鋼用	0	0	0
	(--)	(--)	(--)
化学原料用	0	37	37
	(--)	(132.1)	(132.1)
電力用	0	0	0
	(--)	(--)	(--)
輸入船直納計	0	37	37
	(--)	(132.1)	(132.1)
出荷計	905	254	1,159
	(106.8)	(118.1)	(109.1)
<在庫>			
月末在庫	1,076	536	1,612
	(94.5)	(100.8)	(96.5)
ランニング分	297	184	481
	(75.6)	(90.6)	(80.7)
法定備蓄	779	352	1,131

(注) 在庫は一次基地在庫